



歴史の駅

NPO 法人歴史の駅 理事長 高橋 秀華 様

卓話者紹介

傳 健興会員

NPO法人歴史の駅は、日本各地に在る歴史・伝統文化・民族文化等を各地域の皆様と共に大切に考え、時代や地域を超えて広く社会に提言し、伝承していく事を目的としております。高橋先生は各地で活発に活動され、特に奈良を中心に忘れかけられている歴史を紐解いていらっしゃいます。

NPO 法人歴史の駅

道の駅はご存じかと思いますが、道の駅を企画発案した国交省の方々とその仲間たちで長年続けてきた「歴史と文化」の勉強会を母体として三年前に設立。他にまちの駅・森の駅等があります。連綿と続く日本の歴史は宗教と深くかかわり、そこには伝統があり文化が息づいています。歴史を語る上で宗教が果たしている役割は大きく、変遷を繰り返しながらも、日本の伝統文化が守られ残っている事も宗教と密接に関わっています。古来より神仏混合(神仏習合)であったが明治の廃仏毀釈で大きく形をかえ、日本人の宗教感にも影響を与えました。しかし、静かに深く私達の日常生活に残っています。歴史の駅は、この日本の気候風土に生まれ、連綿と伝わる歴史・文化を見つめ直し光をあてていきたいと考えています。

宗教は歴史と文化の根幹だと考えます

神道と仏教

日本では基本的に大きく分けて神道と仏教があります。本来土着の素朴な信仰で共同体の案寧を祈るものとして、神は特定のウジ(氏)やムラ(村)と結びつき鎮守の神様、鎮守の森として各地に残っています。かつて我が家はお正月になると神棚を始め、井戸神様・火の神様・お稲荷さん等に、父が三宝に載せたお供えを三が日の間お供えをして廻りました。松が取れるとしめ縄を燃やし家の周りにぐるりと撒いていました。

一方お盆は、ご先祖様が帰ってくるので、前日から大掃除、特に仏壇は隅々まで磨いて盆飾りをします。夕方掃き清めた玄関に水を張った金盥と、新しい履物と手ぬぐいを準備して、ご先祖様が長旅でお疲れの足を洗い、埃を払ってお入り頂くように準備し家族総出で御墓にお迎えに行きます。仏様が間違わないように家門の立った提灯に火を入れ「どうぞこの灯りで一緒に参りましょう」と言い、ぞろぞろと家に向かいます。まず玄関の提灯に火を移し入れ、「どうぞおあがりください」と言い、その日はご先祖様と一緒に大勢で賑やかに過ごします。14日はご先祖様が天竺に遊びに行くので蓮の葉にお団子や、御菓子を包んで持たせます。と言っても後で御下がり私達が楽しみに頂きます。しかし、なんと天竺まで日帰りだそうです。15日はあちらにお帰りになるので夕方提灯に灯りを灯し皆で御墓までお送りします。母は「どうぞ気を付けてお帰り下さい、来年もまた来て下さいませ。」と、このような事が形を変え各地で行われていたのだと思います。その積み重ねが日本の歴史文化や伝統文化を築き、お寺や神社を敬い素晴らしい文化財として残ってきたのではないかと考えます。

歴史の駅は、各地の気候風土に培われた美しい風景、歴史、伝統文化を各地の個性として捉え、その地域の方々と共に訪れる皆さまと共に守り、社会に広く発

信していきたいと考えます。戦後、日本は経済市場主義的になり、歴史や気候風土に適したなかに生まれ育んできた、伝統文化と言う大切なものを置き忘れたのではないのでしょうか。欧米の石の文化と違い、日本は紙と木の文化です。一見非常にもろく危うく見えますが和紙も木も非常に強くしなやかです。私達日本人はそのしなやかに順応する特性を見抜き巧く生活に取り入れ寄り添ってきました。日本人の精神性を支えてきた神道と仏教。

2月11日は建国記念日(紀元節)です。紀元660年神武天皇即位の日。昨年、神武天皇2600年祭が橿原神宮で厳かに、かつ現代らしく賑やかにおこなわれました。天照大神の直系の神倭伊波禮毘古命(かむやまといわれびとのみこと)神武天皇が豊かで平和な国造りをめざし九州高千穂の宮から東へ向かい苦難を乗り越え畝傍山の東南麓に橿原宮を創建、第一代天皇として即位されたのが紀元元年です。

国分寺・国分尼寺について

聖武天皇は天平勝宝13年(741年)2月14日(日付は『類聚三代格』による)諸国68ヶ国に国分寺・国分尼寺建立の詔を勅願されます。当時国内は、災害、飢饉、疫病(天然痘)が多発した事から国民の安寧と五穀豊穡を願いました。その後、天平勝宝15年(743年)に東大寺毘盧遮那佛像の詔が勅願されます。東大寺大仏は華嚴経で宇宙の真理を体現した存在とされる盧舍那仏です。大仏の台座には連弁一枚ごとに華嚴経の教えに基づく蓮華蔵世界が彫り込まれています。上段には如来と二十二菩薩が描かれ、中段には横線によって無色界、色界、欲界と言う三つの世界があらわされ、下段には百億世界を象徴する須弥山が配されています。大仏殿は二度焼け落ちましたが復興され今のお姿になりました。平成25年、鑑真入滅1250年を迎え東大寺、唐招提寺では盛大な法要が行われました。その年、東大寺と唐招提寺は鑑真の故郷揚州大明寺に参拝致しました。私もその末席に加えて頂き鑑真の足跡を感慨深く感じてまいりました。

今年は阿倍仲麻呂遣唐使1300年です。隋唐から伝わりこの日本の気候風土に沿って根付いた様々な文化、その様な事を思いながら日本の歴史を振り返り、この国に生まれ住む意味を考えたいと思います。日本に生まれ、遠い異国で日本に想いを馳せた阿倍仲麻呂。

「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」

閉会点鐘

小田 孝志会長

卓話予定

- | | |
|-------|---|
| 2月15日 | 「東日本大震災と安全保障の基盤」
元東北方面総監部幕僚副長 立花 尊頭様 |
| 22日 | 「ブリジストン創業者 石橋正二郎の理念を追って~世界のトップにいたるまで~」
元(株)ブリジストン取締役社長
現 相談役 渡辺 恵夫様 |
| 3月1日 | 休会(3/1 インターシティ・ミーティングに振替) |
| 8日 | 「錦織圭の作り方」
公益財団法人 日本テニス協会理事
東京 RC 橋本 有史様 |
| 15日 | 「日本蕎麦の話」
(株)更科堀井 代表取締役社長・東京東 RC 堀井 良教様 |